

# 「天下人の書状を読む」(解説)

## ① 語句・地名

数多(あまた)	数量の多い様。たくさん。多く。
注進(ちゆうしん)	事件の内容を書き記して急ぎ上申すること。
様躰(ようだい)	様体。「ようたい」とも。物事のありさま。状況。
上使(じようし)	上級権力者から公命を帯びて派遣される使い。
差越(さしこす)	人をよこしたり、物を送ってよこしたりする。
悉(ことごとく)	問題にしているもの全部。残らず。すべて。
越度(おつど)	法に反すること。また過失。あやまち。手落ち。
委細(いさい)	詳しい事情。詳細。

## ② 人名

浅野弾正少弼(長吉・長政)	豊臣秀吉の家臣。岩付城攻めを指揮。
木村常陸介(重茲)	豊臣秀吉の家臣。浅野と共に岩付城攻めを指揮。
本田中務少輔(忠勝)	徳川家康の重臣。小田原合戦後、上総国大多喜10万石を与えられた。
鳥居彦右衛門尉(元忠)	徳川家康の重臣。小田原合戦後、下野国矢作4万石を与えられた。
平岩七(之)介(親吉)	徳川家康の重臣。上野国厩橋・甲斐国甲府を経て、尾張徳川義直付家老として犬山城を領す。
御上使三人	豊臣秀吉の使者、岩槻市史では、伏屋飛驒守・滝川法忠・大屋弥八郎の3名に比定している。

## ③ 内容

天正18(1590)年3月1日、豊臣秀吉は前年の名胡桃城奪取事件を理由に、北条氏を滅ぼすべく関東へ出陣し、4月はじめに小田原城を包囲した。いわゆる小田原合戦の始まりである。岩付城攻めはこの戦乱の中で発生した。同年5月20日に開始された攻撃で、岩付城は二・三の丸を落とされ、本丸を残すのみとなり、浅野長吉・木村重茲は秀吉にその旨を注進した。それに対し秀吉は敵兵を一人も残らず討ちとるように命じている。また、徳川家康の重臣である本多忠勝・鳥居元忠・平岩親吉に対して「両三使」を派遣して、同様の命令を伝えている(※本史料「平岩文書」)。

しかし、秀吉の命令にもかかわらず、浅野・木村は岩付城中の者を助命しており、そのことを秀吉から叱責されている(「浅野家文書」)。

### 【参考文献】

- 佐藤貴浩「伊達政宗の小田原参陣と浅野長吉」『文書館紀要』26、2013年)  
 『岩槻市史 古代・中世史料編1 古文書史料(下)』(1983年)。  
 『戦国人名事典』(吉川弘文館、2006年)。